



## 家庭教育とPTA活動

富里高校は、今年度の『千葉県高等学校PTA研究集会 第2分科会「家庭教育の充実を図るためのPTA活動について」』の提案校となっています。

保護者を中心とする家庭での教育は、教育活動の要であり、大きな役割を担っています。しかし昨今、核家族化、地域のつながりの希薄化、社会経済の大きな変動等による家庭生活の不安定化などを背景として、「家庭教育が困難な社会」となりつつあります。かつては複数世代同居型の家庭が多く、親以外の大人も子どもの家庭教育を担っていました。地域の人々とのつながりも今より密接で、子どもたちを「地域の子ども」として育てていました。また、子どもたちも地域の年の違う子どもたちと接したり、幼い子どもの世話をしたりした経験を持つなど、子育てを支える仕組みや環境がありました。しかしながら、現代の家庭の教育は、そうした社会的な支えを失い、孤立した個々の家庭の中で、親が個別責任において育てるものとなってしまっているように感じます。

家庭が孤立した状況をつくらないためにも、学校・家庭・地域が連携することが大切です。現在の家庭教育に関する課題や、子供たちをめぐる今日的課題を、地域の大人で共有し、課題解決に向けてどのように取り組んでいくかを話し合うことは、地域全体で子供たちを育む環境づくりにつながり、学校・家庭・地域の連携体制が構築されます。さらに、地域の強い絆が生まれます。

学校でも、学習指導はもちろんのこと、生活指導や進路指導、部活指導など、生徒の望ましい将来のために様々な教育活動が展開されています。また、開かれた学校づくり委員会や「ミニ集会」(時間がある方は、ぜひ、参加をお願いします。)など、富里高等学校を「地域になくってはならない名門校にするため」に、関係者が直接教育について話し合う機会を設けています。

富里高校を名門校にしていく上で、PTA活動は大変重要である

と考えます。急に大きな改革はできなくても、話し合いに参加したり、協力したりできることはたくさんあると思います。わたし自身PTAに参加させていただき、いろいろなことを感じ、考えました。そして、富里高校のPTA活動を活性化するために、新しく3つのことに取り組みたいと思っています。

### ①「富高PTA通信」の発行

PTA活動の様子やPTA活動に対する私自身の考えやお願い等、できるだけわかりやすく伝えることで、富里高等学校のPTA活動に興味を持っていただき、富里高校のPTA活動が少しでも活性化できればと思って始めました。(できるだけ毎月お届けしたいと思っています。また、富里高校のホームページで閲覧できるようにお願いするつもりです。)また、空いたスペースには、家庭教育を考える上で参考になるようなことを掲載していきたいと思っています。



大学・短大進学希望者説明会



開かれた学校づくり委

## ②生徒会の役員との交流

本当は、生徒会に限らず、たくさんの生徒とフリートークをする機会が必要であると思っていますが、まずは生徒会の役員と意見交換を行いたいと思っています。残念なことに、富里高校の生徒と直接コミュニケーションを図る機会は多くはありません。しかし、生徒の考えや要求などを知ることは、これからのPTA活動にとって大切なことであると考えたからです。(校長先生には話をしておりますので、ぜひ、実現させたいと思っています。PTAと生徒だけで話し合えればと思っています。)

## ③PTA活動やPTAに対する意識の改革

大きなことはできませんが、PTA活動に対して「やらされている」と感じている保護者の方が少ないのではないのでしょうか。私自身も積極的に始めたわけではありませんが、「やってみようかな」とか「できる時にやればいいんだ」と思ったり、「なんかおもしろそうだな」と感じたりできるように工夫をしていきたいと思っています。そのためには、私自身が保護者の皆様と直接コミュニケーションを図っていくことが大切です。アンケートや話し合いの機会がありましたら積極的に参加して頂き、いろいろな意見をお聞かせいただければと思っています。来年度以降、少しでも協力体制が整うように尽力したいと思っています。

これらの三つの内容について提案したいと思っています。私の好きな言葉の一つに「一生懸命さは、相手に伝わる。」というものがあります。結果はともかく、一生懸命何かに取り組むことで、周囲の人たちに思いを伝えられると思っています。残り少ない時間ですが、子どもたちに負けないように一生懸命頑張ってみようと思っています。

## 卒業式の保護者謝辞について

毎年、卒業式の後に「卒業生保護者代表謝辞」が行われています。3学年の学年委員長が行います。卒業式は生徒や保護者を祝う式であるために、式が終了してから、先生方に感謝の気持ちを表す「保護者代表謝辞」を行う形が一般的です。しかし、この卒業生の保護者が行っている「保護者代表謝辞」が、役員を引き受けることに消極的になる原因の一つになっているということを目にしました。約1000人の前で話すことに慣れている人は少なく、その上、話す内容も一人で考えなくてはいけないからです。



そこで、バザーの前日準備、もしくはバザー当日の朝の打合せの際に、みなさんの意見をお聞きし、PTAとしての考えを学校側に伝えたいと考えています。様々な考えがあると思いますので、忌憚のないご意見をお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

## 言いたいことは我慢して、まずは聞いてみましょう！

「口は一つ、耳は二つ、されば、言うこと少なくして、多くを聴くことよかりけり。」という言葉があります。「聞く」は文字通り音・声を耳に感じることで、耳が持つ役割そのものです。少し難しくなる「聴く」になるには、いったいどんな耳を持てばよいのでしょうか。「傾聴」という言葉があります。この言葉は「耳を傾けて熱心に聞くこと」という意味を持っています。いわば、「聴く」は心を入れ集中して聞くこと、耳を生かす、役立てるということです。本気になって聞くことができないと、相手の心に「感じ」「反応すること」はできません。ぜひ、子どもたちの話を聴いてください。できれば、私の作成している「富校PTA通信」を読んでください。(笑)